

京都市立嵯峨中学校3年  
牧野 菜々子

Music makes me happy and positive。皆さんは音楽が好きですか。私は大好きです。音楽に触れると、辛く苦しい時の心がフワッと溶けるように感じます。共に音楽をつくる仲間と呼吸をそろえたり、情景をイメージしたりする日々が私にとって宝物です。多くの方々に支えてもらっている感謝は感じていましたがまさか税にまで支えられているとは租税教室をうけるまで考えたこともありませんでした。

私は小学四年生の頃から京都市少年合唱団に所属しています。現役の声楽家やピアニストの先生方のご指導のもと、約二百人の団員で一つの音楽に向かって練習しています。租税教室後、身近に税に支えられている例はないか、と母に尋ねてみると、合唱団の団費が安いこと、活動は税金によって支えてもらっていることを教えてもらいました。また中学校では吹奏楽に所属しているのですが、本来なら簡単に手に入れることのできない楽器を吹いたり、プロの楽器奏者のレッスンを受けることができることも税のおかげだそうです。私がこれほど税の恩恵を受けているとは知りませんでした。

では、なぜ世の中には税に不満をもつ人がいるのでしょうか。内閣府が実施した税の不満に対する世論調査のアンケート結果によると、五〇%の人が自分の収入に比べて負担額が大きいと答えています。たしかに消費税の増加に対してや、給料から所得税を引かれることに対して不満に思う人もいます。

ところで、私のクラスでは今、「ポジティブ発言ウィーク」というものを行っています。私自身、クラスメイトからマイナス発言や悪口を聞くと私もマイナスな気持ちになるのが辛くて、この取り組みを提案しました。すると、夏休みの宿題が配られた際に「もう嫌や。…でも頑張ろ。」や、受験の話になった時に「こんなこと考えたくないな。…けど大事なな。」などと言い直して自然と明るい言葉がでてきました。私たちは受験生で、気分がしずむ時もありましたが、無理矢理にでもポジティブな発言をすることで、クラスの笑いのきっかけにもなっています。そこで私のクラスで行っているこのポジティブ発言キャンペーンを国民が意識してみてはどうか、と考えます。そうすれば「所得税高いな。…でも医療費三割にしてもらってる。」「消費税減らしてよ。…でも税のおかげで小中学校に行けた。」などと発想の転換ができると思います。

私たち三年生が受験や勉強は大変で時に辛いものだと感じているように皆さんも「税はとられるものだ」という先入観を自然ともってしまっているのではないのでしょうか。きっと税をポジティブに捉えることで、これまで気がつくことのできなかつた税のありがたさを感じることができるはずです。私達が日頃からどれだけ税に支えられているのか、もう一度みつめ直してみませんか。